
岐阜県立岐阜農林高等学校

学校長

高田 広彦

学校住所

本巣郡北方町北方 150

電話 058-324-1145

1 会議名 令和6年度 岐阜農林高等学校運営協議会（第3回）

2 開催日時 令和7年1月31日（金） 13:30～15:30

3 参加者

会長	住田真佐子	北方町民生委員
委員	川瀬 和弘	北方町立北学園校長
	安藤 貴広	本巣市立糸貫中学校長
	寺田 幸広	岐阜市立岐阜西中学校長
	所 紗也香	大垣共立銀行ぎふ県庁支店長
	伊藤 泉	本校育友会役員
学校側	高田 広彦	校長
	瀬瀬 和也	事務部長
	三輪 孝司	教頭
	中野 輝良	教頭
	井ノ浦慎司	教務主任
	出村 敏行	進路指導主事
	田口 健太	生徒指導主事
	大山 卓英	農場長

4 会議の概要（協議事項）

（1）生徒の学習成果発表と懇談

- ・「地域産業の担い手育成総合戦略事業」での取組について（県教育委員会指定事業）
- ・農業クラブ「意見発表」（令和6年度全国大会 優秀賞）

発表後、協議委員と生徒が懇談

- （意見1） 第1回、第2回の協議会において授業の様子を見学し、生徒が学ぶ姿を見てきたが、今回発表を聞いて、日々の学習の積み重ねがあり、発表内容のように生徒の成長につながることを改めて実感した。
- （意見2） 実際に学んできた生徒の発表を聞き、生徒たちと懇談をする中で、実践を通して学ぶことや課題を見つけてその課題解決に向かう学びを通して、生徒は力を付けていると感じた。岐阜農林高校の学びの様子を中学生にも伝えたい。
- （意見3） 先輩から後輩に研究を引き継いだり、新たな課題に挑戦することもできるなど、生徒が身に付けた知識や技術を生かして学べる環境が作られていて素晴らしい。

（2）本年度の自己評価・学校関係者評価について

- （意見1） 生徒が体験を通して主体的に学んでおり、「やりたいこと」に挑戦できる環境が整えられている。学んでいる生徒の目が輝いていて素晴らしい。
- （意見2） 生徒自身が、「学びたいこと」を「見つけられる」ような支援が大切である。生徒が多様化する現状において、個に応じた支援が十分にできていて良い。

(3) 令和7年度の学校運営方針（スクールポリシー）について

（特に意見はなし）

引き続き、学校運営方針（スクールポリシー）に則り、教育の充実に努めていくことを学校側から説明した。

(4) スクールミッションの決定について

岐阜農林高校に期待される社会的役割、存在意義、目指すべき学校像について委員と学校職員による意見交換を行い、最終案を確認の上、決定した。

（案） 農林業をリードし、地域や社会の担い手を輩出してきた高校として
企業、大学等と連携した探究的な学びや高度で専門的な学びを通して
地域や社会の課題解決に貢献できるスペシャリストの育成を目指す学校

（特に意見はなし）

最終案について承認を得た。今後、教育委員会へ承認された旨を報告し、令和7年度からのスクールミッションとすることを学校側から説明した。

(5) 校則の改訂について

生徒自身が自分たちの学びの環境を主体的につくる学習として、毎年生徒会が中心となって、生徒自身が校則の在り方と向き合い、必要に応じて校則の改訂を行っていることとともに、令和7年度に向けて検討を進めている校則の改訂内容について説明し、意見を求めた。

（特に意見はなし）

改訂案について承認を得た。今後、生徒議会等を経て、令和7年度から改定することを学校側から説明した。

(6) 全体を通して

（意見1） 一人一人の可能性を伸ばす教育が行われていると感じた。探究的な学習の中で「失敗から学ぶ」ことを大切にし、どうすればよいかを考えさせる教育活動を通して、生徒たちが楽しく、たくましく成長できている。

（意見2） 地域との結びつきを大切にしており、柿やホタルを研究の題材にするなど、地域と密着した教育が行われている。身近な課題を教材にして、さらに地域の学校として教育の充実に努めてほしい。

（意見3） 答えがない課題が多いと言われる現代において、実践的に学び、答えを導き出す学びの過程は、生徒が将来を生きる力の育成につながっており、素晴らしい。

5 会議のまとめ

第3回学校運営協議会では、生徒の学習成果発表を見ていただき、発表後の生徒との懇談を通して、生徒に直接助言をいただいた。また、本年度の自己評価及び取組についての助言と学校関係者評価をいただいた。次年度に向けたスクールミッション、スクールポリシー、校則改訂についても承認をいただいた。

委員の皆様には、当校教育に関する取組や方向性について、引き続き助言をいただきたい。